（別紙５）

公表　事業所における自己評価結果

事業所名	児童デイサービスきらめき古堅南

公表日　令和8年　3月　31日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5		祝日や長期休みで放課後デイの児童と利用が重なる場合は部屋を分けてスペースを確保するようにしている。	プレイルームと個別訓練室を使い分けながら、課題に応じた支援ができるよう取り組んでいる。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5		安全を最優先し、余裕をもった支援ができるよう人員配置している。	祝日は放デイの児童の送迎お迎えに職員が出払うため、ことば音楽療法の開始時間を送らせていただいている。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5		子どもが入ってはいけない所は紙を貼って注意の貼り紙をやっている。	建物の構造上死角や段差があるが、あえてバリアフリーではなく注意力、危険回避力を高められるよう支援を心がけている。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5		業務終了時の事業所の掃除、開所前の環境設定を徹底している。	業務時間内に清掃まで終了できない場合があるが、翌日の朝いちばんに行っている。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか 。	5		子どもの状況によって個別の部屋を提供し、活動 内容に合わせて部屋の使い方を工夫している。	部屋が沢山あるので、こともが動き回って支援が難しくなる場合がある。使える部屋を限定するなどして対応している。
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5		日頃からその日の振り返りをし職員会議も行っている。	事業所会議、または日々の申し送りや申し送り帳を通して職員全体に周知徹底する。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		貴重なご意見を参考に業務改善につなげている。	意見箱を設置し、保護者様からの意見を伺い速 やかに対応できるよう心がけている。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		週に一回事業所会議を開催し、意見を出し合って業務改善に努めている。	会議に参加できなかった職員には個別に意見を聞き取りをし、漏れのない情報共有をしている。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	1	4	違う部署の職員に評価をしてもらっている。	第三者による外部評価は行っていない。 まずは、保護者からのご意見を参考に改善を図る。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5		社内の共通研修受講や、階層別研修、事業所内での勉強会を行っている。	今後もティーチャーズトレーニング・チューター研修、ペアレントプログラムに参加予定。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか 。	4	1	ことば音楽療法士が支援プログラムを作成し、他職員に担当を割り振っている。	職員間でのことば音楽療法の指導がスムーズには進められていない。今後も引き続き指導予定。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	5		保護者からアセスメントの聞き取り、計画案をもとにチームで話し合い支援計画書の作成を行っている。	保護者と情報共有しニーズの変更があったり、場合には計画書を柔軟に見直している。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		チームで定期的にケース会議を行い、話し合いを基に計画書を作成している。	今後も支援会議を行い、情報共有したうえで個別支援計画を作成実践していく。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4	1	ことば音楽療法士（児発管）が中心となって支援計画を作成し、この計画に沿ってことば音楽療法を進めている。	今後もケース会議で情報共有したうえで個別支援計画の作成を実施していく。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5		決められたアセスメントシートで毎年確認するよ うにしている。	受給者証更新のタイミングでアセスメントも更新するようにしている。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5		幼稚園雅か小学校へ移行する児童に関しては、午前の利用から午後放デイの時間へ利用時間を変更し、以降に時間をかけるようにしている。	皆様のご協力に感謝いたします。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5		ことば音楽療法士を中心に、チームでプログラムを進めている。	基本的なプログラムは変わらないが、随時新しい提案がなされマンネリ化しないように工夫が必要である。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		固定化したプログラムに加え児童の成長に応じた新しいプログラムを提案している。	同じことを継続することで定着していく支援と、新しいことにチャレンジできるようにアイデアを提案していくバランスを上手く保ちたい。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	5		児童の現状と成長段階に合わせた内容を計画している。	自由遊びとことば音楽療法の両面から支援している。自由遊びに関しての計画内容をより具体的に示し職員間で統一していく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5		朝と午後の２回のミーティングで一日の流れを確認し連携している。	役割分担は事前に行なっていても、想定外な児童の動きに臨機応変に対応できるよう、十分な対応を心がける。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い､気付いた点等を共有しているか。	5		保護者からの情報や支援中気づいた点などは必ずことば音楽療法士に報告する対策を取っている。	ことば音楽療法士が不在の時、どのような支援が行分けたか、子どもと保護者の反応はどうだったか、次回はどうつなげる必要があるか等の振り返りを強化していく
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5		毎日の支援記録を取ることを徹底しており、必要に応じて話し合いが持たれている。	課題がある場合は話し合いをもとに新しい支援方法を提案できるようにしていきたい。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5		定期的に支援計画の評価と見直しを行っている。	モニタリング等で、取り組む事が出来ている。職員、一人一人が細かく連携すればさらに良くなる。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5		児童発達管理責任者が参加している。	児童発達管理責任者が参加できない場合は、報告書を作成し別の職員が代読する場合もある。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	1	児童の併用事業所や学校は定期モニタリング会議にて情報共有をしている。	今後児童が進学する予定の学校との情報交換が密にできるよう、地域の学校との交流機会を増やしていきたい。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5		小学校移行に向けて利用時間の変更を行いながら放デイの児童との交流を増やし、時間をかけて移行支援を行っている。	地域の幼稚園へ進学予定の児童の情報共有を読谷村保幼小情報交換会にて共有させていただいている。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	3	2	幼稚園終了時に、移行先となる学校との情報共有はされていない。モニタリング等で行っているが、まだ相互理解は出来ていない部分があると思う。	地域の幼稚園へ進学予定の児童の情報共有を読谷村保幼小情報交換会にて共有させていただいている。
	28	（28～30は、センターのみ回答） 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	（31は、事業所のみ回答） 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか 。	1	4	地域の児童発達支援センターと連携はとれていない。	今後は必要に応じて連携していきたい。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	2	3	一番近くにある古堅南幼稚園との交流をさせてもらったことがある。	交流回数が少なかったので、今後は定期的に行っていきたい。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5		LINEを用いて各家庭との連絡調整や日々の活動の様子を写真等も加えながら発信している。	保護者同伴型の利用をしていただいているので、保護者との連携にさらに力を入れていきたい。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5		対象者にはご案内をさせていただいている。きらめき児童部門全体で開催したうりずんミーティングには比較的沢山参加してくださった。	保護者様がお仕事などの関係で参加できないことが多い。
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4	1	契約時に一緒に読み合わせし、疑問があればその場で答えられるようにしている。	難しい言葉や分かりにくい内容に対しては、分かりやすく説明できるよう心がけている。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか 。	5		モニタリングや、日頃の送迎時に保護者よりニーズを聞き取り支援計画書に記載している。	皆様のご協力に感謝いたします。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	5		作成した支援計画を説明させていただき、内容を確認してもらってから同意が得られればサインをいただいている。	保護者様の就労の関係でお会いして計画書の内容を直接説明できないことがあり、メールで説明させていただいている。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4	1	相談を受けたら上司に報告し必要であれば職員同士で話し合いをしている。	相談事の解決に向かうよう、内容に相応しい対応を吟味している。保護者会を開催したり、制度のことなどは調べて説明をする必要が合った。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	4	1	祝日は兄弟も事業所に来所出来る取り組みをしている。交流は出来ているが、支援内容に関してはまだ勉強中で試行錯誤しながら取り組んでいる。	未就学児の保護者と放デイの保護者が交流できる会のニーズが高いことが確認され、今年度は一度開催出来た。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4	1	迅速に対応できるように、ＬＩＮＥや連絡帳の活用を行っている。	迅速に適切な対応が出来ていないことがあった。今後このようなことがないよう務めてまいります。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5		利用日には必ず本日の支援内容を発信し、予定の確認なども直接に連絡を取り合っている。	定期的な会報の発信は行っていないが、重要な情報や連絡事項がある場合はその都度発信している。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5		個人情報など重要書類は、鍵付きキャビネットの中に保管している。	鍵付きキャビネット以外にも、ＰＣなど機器類のパスワード設定にも工夫している。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5		絵カードなど視覚的アプローチ等工夫をしている。	児童の特性に応じたツールをさらに開拓していきたい。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	2	夏休み、事業所で展示会を開くことが出来、ご家族だけでなく近所の方々もお招き出来た。	地域にもっと事業所の活動を知ってもらえるよう、イベントを企画していきたい。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	3	2	職員は事故緊急時、感染症に関する対応マニュアルを定期的に確認し、関連する研修を受講している。	職員間では緊急時対応、防犯、感染症についての研修と訓練を行っているが、保護者への周知が出来ていなかった。今後は保護者への
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	3	2	定期的な避難訓練を行っている。	放課後デイでは4回の非常災害時対応訓練が出来たが、児発向けの訓練が実施出来なかった。保護者会を開催し避難訓練を実施する計
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	3	2	その都度保護者と確認している。	契約時や病院受診後などに保護者に状況を確認している。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		5	該当児なし	現時点でアレルギー対応の利用者はおりませんが、今後対象者が出た場合はふさわしい対応が出来るように努めていきます
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4	1	マニュアルはプリントアウトし、職員が困ったときにいつでも確認できる場所に置いてある。また、訓練は年に2回以上行っています。	皆様のご協力に感謝いたします。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか 。	1	4	必要時は公式LINEで発信しています。	皆様のご協力に感謝いたします。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5		事例集を作成し、速やかに改善に向けて話し合い実施している。	ヒヤリハット発生後すぐ事業所内で情報共有を行い、支援の見直し改善策を話しあい、家族、関係機関とも情報共有を行うようにしている。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		職員は定期的に虐待防止に関連する研修を受講し、勉強会も開きながら事業所内の支援体制について振り返りをしている。	どういう行動が虐待に繋がる恐れがあるのか、定期的に職員間で事例検討を行っていく。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	5		身体拘束なし 該当児なし	身体拘束に繋がる行動について、職員間で勉強会や事例検討を行っている。